



平成30年12月10日

各位

会社名 株式会社 リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村義一
(コード番号：4591 東証マザーズ)
問合せ先 取締役執行役員経営企画部長 中村恵美子
TEL. 03-3440-3745

米国プリツカー精神神経疾患研究コンソーシアムとの

MTA(共同研究試料提供契約)締結のお知らせ

当社は、米国プリツカー神経精神疾患研究コンソーシアム(以下、「プリツカーコンソーシアム」)のメンバーの一員であるミシガン大学と共同研究試料提供契約(MTA)を締結いたしましたので、ご報告いたします。

本 MTA 契約の下、当社とプリツカーコンソーシアムは共同で、各種の in vitro(細胞)モデルおよび in vivo(動物)モデルを用いて、当社が創製したアプタマーの精神疾患に対する効果を検証します。

「当社は、FGF ファミリータンパク質に対するアプタマー医薬品の開発に関して豊富な専門知識を有しています。実際、当社が開発した抗 FGF2 アプタマー、RBM-007 は米国において加齢性黄斑変性を対象とした第 I/IIa 相臨床試験に入りました。我々は、当社とプリツカーコンソーシアムとのこの新たな共同研究により、大うつ病性障害、双極性障害、統合失調症などの主要な精神疾患に対する、アプタマーを用いた治療への新たなアプローチが開かれると考えています。」と当社代表取締役社長の中村義一はコメントしています。

プリツカーコンソーシアムの主任研究員である Huda Akil 博士のコメントです。「このような革新的な国際バイオテクノロジー企業のアプタマー技術にアクセスできることは喜ばしいことです。今回の契約により、動物モデルおよび in vitro モデルを用いてリボミックのアプタマーの(精神障害における)機能的重要性を検証するとともに、研究成果の臨床応用というプリツカーコンソーシアムの掲げる目標 (translation goals) にむけて、新たな医薬候補品の開発のサポートが可能となります。」

なお、本件による当事業年度の業績に対する影響はありませんが、中枢神経系疾患に対するアプタマー医薬品の開発という視点から、中長期的に当社の事業に寄与するものと考えています。

プリツカーコンソーシアムについて

プリツカーコンソーシアムは、3つの主要な精神障害、すなわち大うつ病性障害、双極性障害および統合失調症の、神経生物学的および遺伝的原因の解明を目指しています。プリツカーコンソーシアムはさらに、バイオマーカーや新規医薬標的の同定にも取り組んでいます。プリツカーコンソーシアムは、気分障害に関連する脳回路の遺伝的変化を同定するための研究を実施しており、基礎研究から臨床研究、遺伝学から神経科学といった科学的

プロセスのあらゆる領域の研究者で構成されています。

こうした多角的なアプローチは、同時に双方向的ともいえます。すなわち研究のプロセスが、死後のヒト脳組織から始まって、動物モデルへと進み、精神障害を有する個人に循環して戻ることで、プリツカーコンソーシアムの知識が患者にとっての利益に転換されるのです。

プリツカーコンソーシアムについての詳細は下記をご参照ください。

<http://www.pritzkerneuropsych.org/>

株式会社リボミックについて

リボミックは創薬バイオベンチャーとして、次世代医薬品としての開発が期待される核酸医薬の一種であるアプタマー医薬品の開発に取り組んでいます。当社の技術プラットフォームである RiboART システムは、様々なアプタマー医薬品の開発に利用できます。リボミックは、疼痛、眼障害、骨疾患など、幅広いアンメットメディカルニーズをターゲットとして創薬に取り組んでいます。

当社についての詳細は下記をご参照ください。

<http://www.ribomic.com>

お問い合わせ: <https://www.ribomic.com/contact.html>

以上